

7 計算の工夫

1. $44 + 27 + 3 = 50 + 30 = 80$
 $16 + 10 + 27 + 3 + 34 = 50 + 10 + 30 = 90$
 $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 = 10 + 10 + 10 + 10 + 5 + 10 = 55$

2. $44 + 27 + 3 = 50 + 30 = 80$
 $16 + 10 + 27 + 3 + 34 = 50 + 10 + 30 = 90$
 $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 = 10 + 10 + 10 + 10 + 5 + 10 = 55$

3. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

4. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

5. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

6. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

7. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

8. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

9. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

10. $38 + 45 + 12 = 95$
 $38 + 12 = 50$
 $50 + 45 = 95$

算数 第7回

算数の文章題で、大切なのは問題に合った式を立てることです。文章題では、式は話の流れにそって立てることが基本です。その式を計算するときに関係してくるのが、今回のテーマである「計算の工夫」です。計算の工夫とは、計算のルールを守ったうえで、やり方や順序を変えて、速く確実に計算できるようにすることです。その中でも、今回は「一の位が0になる計算を先にする」という方法を取り上げました。この方法は、学年が上がってからも多くの場面で役立つものですので、しっかり身につけておくとういでしょう。

5 長さ

1. $5\text{cm} = 50\text{mm}$
 $84\text{mm} = 8\text{cm} 4\text{mm}$
 $152\text{cm} = 1\text{m} 52\text{cm}$
 $2\text{m}8\text{cm} = 208\text{cm}$

2. $2\text{cm} < 118\text{cm}$
 $15\text{mm} < 1\text{m}15\text{cm}$
 $20\text{cm} > 5\text{m}$
 $20\text{cm} < 489\text{cm}$

3. $3\text{m} + 2\text{m} = 5\text{m}$
 $2\text{m}35\text{cm} + 4\text{m}15\text{cm} = 6\text{m}50\text{cm}$
 $3\text{m}40\text{cm} - 1\text{m}5\text{cm} = 2\text{m}35\text{cm}$

4. $3\text{m}10\text{cm} - 1\text{m}20\text{cm} = 2\text{m}90\text{cm}$
 $2\text{m}110\text{cm} - 1\text{m}20\text{cm} = 1\text{m}90\text{cm}$
 $310\text{cm} - 120\text{cm} = 190\text{cm} = 1\text{m}90\text{cm}$

5. $1\text{m}80\text{cm} + 4\text{m}30\text{cm} = 6\text{m}10\text{cm}$

算数 第5回

1, 2 は、 $1\text{cm} = 10\text{mm}$, $1\text{m} = 100\text{cm}$ という関係を理解し、応用させて解く問題です。2 のような大小比較の問題を考えると、単位をそろえることが大切です。3~5 では、長さの計算を扱いました。同じ単位どうしなら、普通の数と同じようにたし算・ひき算ができます。4, 5 で扱っている単位をまたいだ繰り上がり・繰り下がりがある計算は、一部の教科書では扱われていないレベルの問題で、発展学習にあたります。4 の2で取り上げている2通りの方法のどちらで解いてもかまいませんので、お子さまが理解しやすいほうで教えてあげてください。

3 たし算・ひき算①

1. $46 + 27 = 73$
 $18 + 35 = 53$
 $44 + 38 = 82$
 $48 - 19 = 29$
 $54 - 25 = 29$
 $40 - 24 = 16$

2. $53 + 47 = 100$
 $7 + 4 = 11$
 $81 + 42 = 123$
 $6 - 2 = 4$
 $2 - 9 = -7$

3. $32 - 18 = 14$
 $32 - 18 = 14$
 $16 + 24 = 40$
 $40 \div 2 = 20$
 $38 - 10 = 28$
 $38 + 28 = 66$
 $38 + 28 = 66$

算数 第3回

1 では、筆算の確認をしてもらいます。繰り上がり・繰り下がりに注意して取り組みましょう。2 では、筆算の穴うめ問題を取り上げました。たし算とひき算の関係を使って解いてもかまいませんが、 $3 + \square = 8$ の \square に適当な数をあてはめて試行錯誤しながら考えるという方法で解いてもよいでしょう。2 は繰り上がり、4 は繰り下がりがあるので注意が必要です。例えば、2 で十の位だけ見て「 $4 + 4 = 8$ 」としてしまわないように気をつけましょう。3~5 では、たし算なのかひき算なのかをよく考えて取り組みましょう。5 では、2段階に分けずに、 $38 + (38 - 10) = 66$ と () を使って表してもよいでしょう。

1 時ごとと時刻

1. $60 \div 1 = 60$
 $144 \div 90 = 1$
 $85 \div 1 = 85$

2. 1 時間
 2 時間
 3 時間
 4 時間
 5 時間
 6 時間
 7 時間
 8 時間
 9 時間

3. 7 時 20 分
 7 時 00 分
 7 時 00 分

算数 第1回

1 は、時間から分、分から時間への単位換算の問題です。例えば、4 は、 $85 - 60 = 25$ (分) だから、85 分は 60 分が 1 個と 25 分を合わせた時間で、1 時間 25 分のように答えを求めます。2~4 では、時間の経過と時刻を考える問題を取り上げています。長い針や短い針が何回りするかに着目するとよいでしょう。時刻と時間の単元は日常生活と密接に関わっていますので、意識的に「今は午前 8 時だね。」のように声をかけあげるとよいでしょう。

8 かけ算①

1. $3 \times 8 = 24$
 $7 \times 6 = 42$
 $4 \times 5 = 20$
 $8 \times 4 = 32$
 $9 \times 2 = 18$

2. $2 \times 3 = 6$
 $5 \times 1 = 5$
 $1 \times 9 = 9$
 $6 \times 7 = 42$
 $7 \times 7 = 49$

3. $16 \times 6 = 96$
 $21 \times 3 = 63$
 $41 \times 6 = 246$
 $61 \times 4 = 244$

4. $4 \times 8 = 32$
 $12 \times 16 = 192$
 $20 \times 24 = 480$
 $28 \times 32 = 896$

算数 第8回

かけ算は、2年生の算数における最大の山場であり、また、今後の計算分野の基礎となる内容でもあります。3年生になる前に、確実に定着させましょう。3 では、ある段とある段の答えの差に注目します。なお、この問題での「さ」という言葉は、「ひき算の答え」という数学用語としてではなく、一般的な「違い、開き」という意味で用いています。4 は、隣りどうしの \square の差に着目すれば、何の段の答えが並んでいるかがわかります。たとえば、3 であれば、「63 と 54 の差が 9」だから、9 の段の答えが並んでいるとわかります。

6 かさ

1. $50\text{L} = 5\text{L}$
 $800\text{mL} = 8\text{L}$
 $6\text{L} < 62\text{L}$
 $33\text{L} > 3\text{L}2\text{dL}$
 $70\text{L} = 7000\text{mL}$
 $500\text{mL} < 1\text{L}$

2. $60\text{mL} + 35\text{mL} = 95\text{mL}$
 $1\text{L}5\text{dL} + 3\text{L}4\text{dL} = 4\text{L}9\text{dL}$
 $8\text{L}5\text{dL} - 2\text{L}3\text{dL} = 6\text{L}2\text{dL}$

3. $1\text{L}3\text{dL} + 2\text{L}8\text{dL} = 4\text{L}1\text{dL}$
 $1\text{L}3\text{dL} + 2\text{L}8\text{dL} = 4\text{L}1\text{dL}$

4. $6\text{L}5\text{dL} - 2\text{L}3\text{dL} = 4\text{L}2\text{dL}$

5. $1\text{L}3\text{dL} + 2\text{L}8\text{dL} = 4\text{L}1\text{dL}$

算数 第6回

今回はかさに関する問題を取り上げました。かさに関する問題は、長さの問題と同じように考えていくとよいでしょう。3~5 では、かさの計算を扱っています。5 では、発展学習として、単位をまたいだ繰り上がりのある計算を扱いました。答えとして、 $3\text{L}11\text{dL}$ というまちがいが多くかかるといいます。お子さまにとっては、「 11dL 」とは言えるのに、「 $3\text{L}11\text{dL}$ 」とは言えないところが難しく感じられるでしょう。「 $3\text{L}11\text{dL}$ とは言わないよ。 $3\text{L}11\text{dL}$ は $4\text{L}1\text{dL}$ と同じ大きさだから $4\text{L}1\text{dL}$ と書くよ。」と声をかけてあげてください。

4 たし算・ひき算②

1. $58 + 63 = 121$
 $86 + 19 = 105$
 $8 + 95 = 103$
 $129 - 48 = 81$
 $146 - 68 = 78$
 $100 - 59 = 41$

2. $168 - 75 = 93$
 $152 - 87 = 65$
 $106 - 43 = 63$
 $38 - 56 = -18$

3. $47 + 86 = 133$
 $133 - 47 = 86$

4. $120 - 28 = 92$

算数 第4回

1 の筆算では、位ごとに縦の位置をそろえて書くことと、記号 (+, -) を書く位置に気を配りましょう。2 では、筆算の穴うめ問題を取り上げました。4 では発展問題として、空欄が2箇所ある問題に挑戦します。吹き出しにあるように、繰り下がりに注意して右上の穴からうめるとよいでしょう。3, 4 では、逆思考の問題に取り組んでもらいます。逆思考とは、たし算の場面のようにありながら答えはひき算を使って求めたり、ひき算の場面のようにありながら答えはたし算を使って求めたりする問題のことです。逆思考の問題では、3 のようなテープ図を使って考えると、大小関係を把握しやすくなるでしょう。

2 ひょうと グラフ

1.

曜日	人数
月	5
火	4
水	1
木	3
金	2
土	4
日	6

2.

曜日	人数
月	5
火	4
水	1
木	3
金	2
土	4
日	6

算数 第2回

1 では、表やグラフの基本的な読み取りを練習します。2~4 を考える際は、数字ではっきりと表されている表のほうが便利なケースと、見た目では数的大小を判断できるグラフのほうが便利なケースに分かれると思います。その比較をおして、表とグラフの違いや特徴を理解できるとよいでしょう。2 では、文章で表現された情報を整理して表に表すことに挑戦します。式を書く欄を特に設けてはいませんが、余白や別紙を使い、適宜、式を立てて解いていくようにするとよいでしょう。難しい問題なので、正解できた場合にはほめてあげてください。